

九州支部だより



No. 110 2011年3月

平成22年度 日本気象学会九州支部発表会報告

九州支部会員の研究発表・交流のために毎年開催している「日本気象学会九州支部発表会」を、今年度は2011年3月5日（土）に宝山ホール（鹿児島市）で行いました。

今年度の支部発表会では、昨年10月の奄美大島豪雨を受け「奄美大島の大雨災害に関連する特別講演・特別セッション」を気象災害委員会と共催で実施し、特別講演は、加藤輝之氏、津口裕茂氏、地頭菌隆氏によりまして行われました。

今年は、特別セッションを含め発表題数が24題、発表者並びに聴講者数が約60名となり、盛況のなか発表会が進行していきました。活発な質疑応答もなされ、予定していた時間をオーバーし閉会となりました。

講演者ならびに運営に協力いただいた皆様のおかげで発表会を終えることができました。この場をお借りし、お礼を申し上げます。

※今年度のプログラム等について：<http://msj-kyushu.jp/express.html>





発表会場の様子



発表の様子

平成22年度 支部奨励賞授賞報告

九州支部では研究を本務としない支部会員または若手支部会員で、「気象学の向上に資する研究を行っている」「気象学の教育・啓発活動を積極的に行っている」「気象学を応用した活動で社会に貢献している」のいずれかに該当する方に「支部奨励賞」を贈呈しています。

本年度は長門信也氏、下村早也香氏の2名が奨励賞を受賞されました。受賞された2名の方には、贈呈式（九州支部発表会場）において、廣岡支部長代理より賞状及び記念品が贈呈されました。

※以下、授賞様子とご本人の喜びのコメント、さらに推薦者及び推薦理由を掲載します。



【受賞者：長門 信也（鹿児島地方気象台 観測予報課）】



このような素晴らしい賞をいただき、ありがとうございました。私は、気象台に入ってから3年になり、週間予報や長期予報といった仕事に携わっています。そのような中で調査研究を行えること、今発表会で発表させていただいていること等、充実した環境を与えていただいていることも合わせて御礼を言いたいと思います。今後もこの賞を糧に研鑽を積んでいきたいと思っています。どうもありがとうございました。

推薦者：用貝 敏郎（鹿児島地方気象台 観測予報課長）

推薦理由：長門 信也 会員は、平成15年度に気象庁（気象大学校）に入庁、平成19年度に鹿児島地方気象台へ赴任、現在は週間予報や季節予報に携わっている。赴任直後から、本来業務以外にも、鹿児島地方気象台ホームページの作成や気象資料データベース検索ツールの作成など、気象の現場で業務上必要とされる開発も精力的に行ってきた。

昨年度は、当支部発表会で「台風0705号の九州通過時における構造の変化について」講演を行った。気象庁非静力学モデルで再現実験を行い、その結果から、再現された台風0705号の立体構造は進行方向へ中心軸が傾斜し、台風前後面で非対称構造が見られることを突き止めた。これらの特徴は、一昨年度気象研究所との共同研究で行ったウィンドプロファイラの解析結果と一致する。更なる調査は必要であるが、後面での下層吹き出し強化と中層以上の吹き込み高度上昇は衰弱時の特徴である可能性があること、感度実験の結果から対流活動域での非断熱加熱や境界層内での水蒸気輸送の振る舞いが台風の盛衰・進路に大きなインパクトを持ち台風予測の上での重要性であることも示した。また、壁雲・内側降雨帯付近の降水は台風固有の構造である下層収束に暖湿気が流入し風下側での地形効果によって強化されたと考えられること、地形の影響は外側降雨帯で顕著であることも示した。

今年度も、「アメダス観測値を考慮した梅雨入り・梅雨明けの判定基準の見直し」という気象庁が抱える問題についての先駆的な研究を行っている。

このように、鹿児島地方気象台へ赴任してまもないが、並々ならぬ努力の結果、次第に力を発揮しつつある。業務の傍ら、気象の現業作業に有効利用される調査・研究・開発に取り組む真摯な姿勢は、若手職員やその他の気象関係者の範となるものであり、奨励賞授与に値するものであることから、ここに推薦するものである。

【受賞者：下村 早也香（名瀬測候所）】



本日は、このような賞をいただくことができ大変うれしく思います。ただ自分としては、まだまだこのような賞に値するような調査研究の成果を挙げていると思っておりません。これからは、この賞に値する成果を残すように励んでいきたいと思っております。本日は、ありがとうございました。

推薦者：用貝 敏郎（鹿児島地方気象台 観測予報課長）

推薦理由：下村 早也香 会員は、気象大学校を卒業後、平成19年4月に下関地方気象台技術課に採用され、現在、名瀬測候所技術課に在籍している。

下関地方気象台への採用後すぐに、気温特性、空港における下層シアー、最高気温ガイダンスに関する共同研究を行い、うち1件では筆頭研究者として調査を実施した。その後も、毎年、大雨事例や気象特性に関する調査を継続しており、それらの内容は気象業務の向上に資するのみならず、気象に関する知見の発展にも資するものである。

特に平成22年度は、奄美大島における地形成降雨について過去の研究成果とも照らしながら、特徴的なパターンを整理し、気象予測の改善に資する結果を取りまとめた。今後とも残された課題の調査を継続することで、奄美大島における地形成降雨の予測改善に寄与するとともに、気象学的知見にも資するものと期待される。

以上のように、気象台職員として日常の業務に携わる中で、気象業務の改善に努めるとともに、気象学の発展にも寄与しており、調査研究に取り組む姿勢は奨励賞授与に値するものであり、ここに推薦する。

事務局からのお知らせとお願い

「九州支部だより」の原稿募集

九州支部事務局では、九州支部だより No. 111 (平成23年7月頃発行予定)の原稿を募集しています。皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

転勤等で異動されるときには

転勤等による異動の際は、新しい住所と所属を九州支部事務局まで連絡していただくようお願いします(電話・ファックス・E-mailでも可)。本部または異動先の支部(他支部への異動のとき)への報告は当支部で行いますので、会員の方の異動先での手続きは必要ありません。

平成23年3月 発行

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区气象台技術部気候・調査課内 日本気象学会九州支部

TEL : 092-725-3614 FAX : 092-761-1726

E-mail : info@msj-kyushu.jp

<http://msj-kyushu.jp/index.html>